

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500402		
法人名	有限会社 ケアステーション神有		
事業所名	グループホーム 木いちご(野の花)		
所在地	〒694-0021 島根県大田市久利町行恒346-1		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護社		
所在地	島根県松江白湯本町43番地		
訪問調査日	平成25年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の生活を考慮し、自己決定の出来る環境や関わりを大切にしている。
地域の交流も増え、誰でも気軽に訪問しやすい開放感あるグループホームになるよう心掛けている。
又、馴染みの関係を絶つことなく、入所しても以前の交流を続けられる様支援したり、生活習慣、嗜好の部分にも重点を置きケアに努めている。
職員は穏やかで毎日を楽しみ気持ち良く生活できる事を喜び、笑顔の絶えない生活を一緒に送れるよう支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえて日々を送っている。共に自由に生きる喜びを分かち合っている。玄関には管理者独自の理念を貼り出し、訪問者にも周知して頂く工夫をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加、定期的に保育園と交流をし地域とのつながりを大切にしている。近隣に生花、音楽リハビリの講師ボランティアがおられ、定期的に訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険の申請相談や、家族、近所の方の相談、他施設の等の質疑等にも答えている。又、家族や近所の方にお便りを発行し、認知症についての理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣へ利用者様の理解を依頼や、緊急時の協力をお願いしている。細かい事でも何でも話せる雰囲気もあり、アットホームな会議となっている。マニュアルも一緒に検討して貴重な意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員も運営推進会議に参加されるため、とても良いアドバイスを頂いている。介護相談員も来られるようになり、とても勉強になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠はせず、自由に出入りできる環境を作り、目配りをしている。毎月のリスク会議で話し合いを行い、拘束のない生活を目指している。やむを得ない事情の方は家族へ同意を求め必要性の話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の全体会議、処遇会議、各ユニット会議等で常に自身の行動や虐待について振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の会議議題に組み込み、全体会議で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前はなるべく訪問して頂き、雰囲気等を理解して頂く様に努めている。解約時も何度も話し合いをし、退所後の相談にもものようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホーム便りを出し、ホームの様子をお知らせしている。介護相談員も月に一度訪問があり、利用者様は相談しやすい関係が出来ている。又、居室担当からは定期的に近況のお便りを出し家族との信頼関係を築き相談しやすい関係をつくっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の得意な分野で委員会に属している。会議も多く沢山の意見や提案を話し合える場を設けている。個人面談を定期的を実施し、相談しやすい関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の目標を掲げ目標に沿ってケアを行っている。資格取得の相談や、能力給によりやりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やグループホーム部会の勉強会に参加し、質の向上に努めている。又、全体会議等でマニュアルの見直しや新たなマニュアルの作成をし、勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の勉強会に参加したり、研修等で同業者と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人からの生活歴を聞き、日々の生活に生かせる工夫をしている。職員は認知症ありきではなく、人と人の関係を大切に、要望を聞き逃さないように傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に時間をかけて面接をして話し合う時間を設けている。話し合いの中で悩み相談もあり、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	社会とのつながりを大切にし、今までの関係を崩さないように工夫している。又家族の悩みや今までの苦労にも重点を置き会話に努めている。入所前のサービス担当者にも情報を提供してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、趣味活動や家事を一緒にしながら共に生活をする良い関係を築いている。人生の先輩としてアドバイスをもらうなど、教えて頂く姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや、年に4回の居室担当からのお便りにて近況報告をしている。面会時も近況を話したり、家族に支援のアドバイスを頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの宗教の集まりに出かけている方や、宗教関係の方の面会、行きつけの主治医との関係を維持できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を考慮し、食事の席を配慮したり、気の合う同士の交流が出来るように両ユニットで交流している。利用者同士居室を訪問し話をしている姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も近況を尋ねたり、いつでも又何かあれば気軽に相談して欲しいと意思を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や心理面を理解し、家族からも細かく情報収集している。居室担当を中心に個別ケアの充実に努めている。連絡ノートや申し送り等で共通のケアを目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接で得た情報を基に生活歴や入所前の生活を出来るだけ維持できるように工夫している。一人外出も家族や近隣の協力を得て積極的に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各自の生活リズムを把握し、リズムを崩さない努力をしている。健康に関しては健康委員が管理している。トータルケアを充実させる工夫もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で個別ケアの充実に図っている。3ヶ月に一回のモニタリング、ケアプランの見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り表にて各ユニット申し送り、個人記録にて毎日の気づきを逃さない工夫をしている。大切な事は連絡ノートに記入して、意識、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診を往診に切り替えたり、家族の状況を踏まえた関わりをしている。夜間入浴を取り入れたり、晩酌などの嗜好品も提供している。家庭に近い生活を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	宗教関連で外出される方あり。宗教の方が送迎、服薬も協力して下っている。前年度より音楽リハビリのボランティアが月に1回訪問、地域との交流になっている。又図書館も利用している。近所のお宮にも頻繁にお参りしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	囑託医はいないため、入所後も主治医との関係は保っている。往診や定期受診も以前同様かかりつけ医のため、利用者も喜んでおられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は2名常勤している。健康委員を受け持ち、かかりつけ医への相談役も兼ねている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急病院の相談員やかかりつけ医、家族と密に相談している。相談員とは入院している利用者がいなくても連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを取り入れ、7名の方を看取った。職員も大変勉強になり、チーム全体で取り組んでいる。看取りのマニュアルを作り、看取りについてもまとめている。急変時は家族に付き添ってもらう工夫もしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法は全体会議で議題に盛り込み、実践できるよう常に復習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害時の話し合いも多く、近隣をお願いをしている。スプリンクラーも設置済み。避難訓練は年に2回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する同意書あり。認知症ありきではなく、人生の先輩として教えていただく気持ちで接している。あまりよそよそしくなく、又馴れ馴れし過ぎない言葉使いに注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶、入浴、買い物、散歩、外出、趣味活動等日常的に自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力や、意向の把握をし、その能力を活かせる役割を見出せるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月1回の訪問散髪時はお化粧をしてもらったり、顔そりをしてもらっている。日常的に職員とお化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	女性が多く毎日の食材切りや盛り付け作業を支援。利用者同士でだけで声を掛けあい、食器洗いや食器拭きを等が習慣になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ食や粥食など細かい嗜好の部分での配慮をしている。嚥下機能や義歯のあり、なしについても考慮している。食事、水分量の把握は介護記録1にて全て記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥や肺炎につながる事等をホーム内で勉強し、口腔内の清潔に注意をはらっている。日曜日には義歯の消毒日としマニュアルに沿って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンを把握し、職員は統一したケアを行っている。自立に向けたトイレ誘導や、残存機能を活かしたトイレ介助を行っている。さり気ない誘導、さり気ない声掛けを心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて、自尊心を傷つけないよう配慮しながら排便を把握している。健康委員会、給食委員会が連携し、オリゴ糖やヨーグルトも取り入れている。運動にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴を導入し定着している。利用者間で「お先に」と声を掛け合う姿有り。日曜日は基本ゆっくりしていただくように入浴介助は中止。希望があれば入浴できる環境にある。夜間入浴の方は毎日入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活しておられる。自室、ホール、和室等それぞれに安心する場所がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が勤務しているため、服薬管理している。変方時は副作用に注意し、申し送り等で徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好を活かした日々を過ごしている。女性が多く、多彩な方が多い。一日を有意義に過ごせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や買い物希望があればすぐに出かけ、希望に添えるよう支援している。季節に合わせた花見、紅葉ドライブや、年に1回の遠足は少し遠出をしている。町内の行事などにも出向いている。個々の宗教活動の外出支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理して入る方あり。又自己管理はされてなくても職員のサポートがあれば、移動販売のパンの購入が出来、品物を選ぶ楽しみと自分で支払いが出来る満足感が得られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた際にお礼の電話支援、遠方の方は電話を取次いだり近況を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁面に装飾をして季節感を出している。整然と整理しすぎず、生活感ある空間。外の花壇には季節の花や野菜が植えてあり、収穫などを楽しんでいる。台所からは食事作りの際の良い匂いがホールに漂う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常的に自由に過ごされている。束縛せず毎日を穏やかに過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い馴染みの筆筒や布団、コタツなどを持ち込んでいただき個々に合わせた居住空間となっている。位牌や写真を飾ってある部屋もあり、落ち着ける場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに沿って支援している。自立支援はリスクと隣り合わせのため、出来る可能性や、残存機能を最大限に活かす支援をしている。		